

2024  
vol.63  
no. 6

# 写真測量とリモートセンシング

小特集 「2023年と2024年の災害」

## 目次

〈巻頭言〉 災害対応と新たな技術の活用	山本悟司	211
〈カメラアイ〉 小型 SAR 衛星群に期待される社会的役割	遠藤貴宏, 古田竜一	212
〈小特集〉 「2023年と2024年の災害」		215
〈海外とびある記〉 ACRS2024・ISPRS SC SUMMER SCHOOL 2024参加報告	山口 哲	220
〈海外とびある記〉 Report on the 45 <sup>th</sup> Asian Conference on Remote Sensing (ACRS 2024)	Dissanayaka Mudiyansele Pavithra Sudeshika	224
〈活動報告〉 令和6年度秋季学術講演会 報告	中川雅史	227
〈活動報告〉 令和6年度秋季学術講演会 特別セッション報告	布施孝志, 今井靖晃, 織田和夫	253
〈活動報告〉 第45回アジアリモートセンシング会議 (ACRS) 報告	長 幸平	255
〈活動報告〉 『ACRS2024 JSPRS Award・Shunji Murai Award』受賞者報告	須崎純一	259
〈活動報告〉 北海道支部活動報告・北信越支部活動報告・関西支部活動報告		261
〈文献抄録〉 Introduction to LiDAR Remote Sensing	山本達也	266
〈文献抄録〉 Global urban structural growth shows a profound shift from spreading out to building up	大吉 慶	267
〈2024年号 (Vol. 63) 年間総目次〉		269
〈会のうごき〉		271
〈投稿要領・執筆要領・原稿送付状〉		272

表紙説明：国土地理院は、最新の航空レーザ測量データを基に作成した基盤地図情報（数値標高モデル）1mメッシュ（標高）の提供を、令和5年11月30日に開始した。メッシュサイズ1mは、これまで提供してきた5mメッシュに比べて25倍、10mメッシュに比べて100倍の分解能を持ち、より細かな土地の状況を表すことができることから、更に精度の高いシミュレーションが可能となり、ハザードマップの浸水想定や土砂災害警戒箇所の抽出精度の向上などが期待される。本表紙画像は、新たに提供を開始した1mメッシュの標高データの細かさを視覚的に示すため、これまで提供されてきた5m及び10mメッシュの標高データと隣り合う場所で連続的に上段から下段へ並べて表示したものである。

本学会のホームページを開いたしておりますのでご覧ください。

<https://www.jsprs.jp>

E-mail: [office-jsprs@jsprs.jp](mailto:office-jsprs@jsprs.jp)

### 編集委員

委員長	織田和夫	(アジア航測(株))
委員	石塚直樹	(農業・食品産業技術総合研究機構)
	上村治睦	(リモート・センシング技術センター)
	木寺幸司	(南海測量設計(株))
	窪田諭	(関西大学)
	白井直樹	(朝日航洋(株))
	高橋元気	(国際航業(株))
	高橋陪夫	(宇宙航空研究開発機構)
	近津博文	(東京電機大学)
	沼尻治樹	(日本測量協会)
	沼田洋一	(アジア航測(株))
	野口真弓	(国土地理院)
	藤野千和子	(日本写真測量学会)
	布施孝志	(東京大学)
	政春尋志	(元 東洋大学)
	吉野邦彦	(東京大学)
	李 勇鶴	((株)パスコ)
	力丸 厚	(長岡技術科学大学)